

今、卒業証書を手にした、一七七名の卒業生の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。

今日むかえた卒業式。何の制限もなく実施できる卒業式、校長として 最高の卒業生を、このような形で見送れることを、心の底からうれしく思います。

皆さんとの出会いは、二年生の春でした。とても明るいが、メリハリがあり、気配りのできる学年だと感じていました。

そして三年生になりました。思い出はたくさんあります。まずは修学旅行、班別研修が終わり、タクシーから満足感にあふれた笑顔で降りてくる皆さんのことは、忘れることができません。その他にも、新幹線の中で お弁当を片付けてくれたり、荷物をもってくれたりする 私への気配り、けがをして参加している生徒への気配り、また、けがをして参加している生徒も、手助けしてくれる方々への心のこもった、お礼の言葉、さらには混雑している京都駅での高齢者への気配りなど、皆さんの気配りは素晴らしいものがあり、皆さんの校長であることを 誇りにさえ感じました。

体育祭では、長縄跳びで 引っかかってしまった場面で「ドンマイ、ドンマイ、まだ、まだ大丈夫。」という、気持ちちがこもった言葉、またボランティア「応援し隊」による、パワーアップした「あげあげほいほい」、みなさんの優しさやたくましさが感じられました。

合唱コンクールでは、美しい歌声を 町民ホールに響かせ、クラスの団結を高めました。休憩時間に、三年生の全クラスが、様々な場所で練習に励み、声をかけあっている姿に感動しました。

部活動では、総合体育大会や、県学校音楽祭等の最後の大会での、みなさんの必死な姿に、そして終わった後の笑顔、そして涙に感動し、思わず涙がこぼれてきたのを覚えていきます。そんなみなさんを応援するために、県内はもとより、県外にまで応援に行けたこと、今考えると、とても楽しい時間でした。ありがとう。

そして、中学校最後の挑戦、高校入試。どのクラスにも、朝早くから勉強するために登校する生徒が増えて、学校全体で入試に向かっている雰囲気を感じられました。そんな朝早くの教室を見るのが 私の楽しみでした。

これ以外にも、この一年間のみなさんの姿は、在校生たちの手本であり、これからの道しるべになると確信しています。

さて、今日は卒業する皆さんに、最後のお願いがあります。それは、「高根沢町を忘れないでほしい」ということです。これから皆さんは、それぞれの場所で、生きていくことになります。皆さんの人生が、目標に向かって上手く進んでいるときは、そのまま進めばいいのです。でも、上手くいくことばかりではありません。失敗して、辛いと感じることもあるでしょう。どうしてよいかわからないくらい、悩むこともあるでしょう。そんな時は、自然豊かで 何も無い、高根沢町を思い出してください。時間の許す人は、ぜひ高根沢町を訪れてください。きっと皆さんの心が、中学生の頃に戻り、何もないからこそ、穏やかな気持ちになり、その先進むべき道の ヒントが見つかるのではないのでしょうか。私は大好きな高根沢町に住み、そんな皆さんを見守り、応援していきたいと思っています。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。私共教職員は、お子様の成長の一助になれるよう、日々努めてまいりました。至らない点も、多々あったと思いますが、それにも関わらず、本校教育に、深い御理解と、温かい御協力をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん。いよいよお別れです。自分が学び巣立っていく、阿久津中学校、そして中学校時代を過ごした高根沢町を愛し、国際的な広い視野と、より高い志を持って、自分の信じた道を、力強く前進してくれることを祈念し、式辞と致します。

令和七年三月一〇日